国土学事始め

大石久和さん
国土技術研究センター理事長

道のコミュニティー形成機能

ヨーロッパの都市を訪ねますと、長い歴史を持つ重厚な建造物が、われわれを迎えてくれます。そこかしこに百年をはるかに超える歴史が重なり合って存在しています。まさに都市文明の国なのだと実感させられます。

都市こそがコミュニティーの場であり、都市こそが文化である象徴が、街のあちこちにある広場です。そこでは市民が集まって合議を重ねたり、市場が開かれたりしてきました。

その中心に教会があることも多く、ヨーロッパにおけるキリスト教の偉大なる存在感は、それが絵画や彫刻の主題であることとあわせて、ほとんどが異宗教人であるわれわれに、強烈な印象を与えています。

パリだけでもいくらの広場があるか、見当もつきません。コンコルド広場、ヴァンドーム広場、ヴィクトワール広場、ヴォージュ広場、エトワール広場、ソルボンヌ広場、ヴァリュベール広場、バスティーユ広場等々、これ以外にもたくさんあって数え切れないくらいです。

もちろんパリ以外の都市でも事情はほとんど同じです。グランドパレス、グランパレという名称の中心広場は多くの都市にありますし、それぞれの都市にはそれぞれに広場があります。

ところが、ヨーロッパの各都市において都市のコミュニティー形成に欠かせなかった広場が、わが国の都市にはほとんどありません。

わが国の都市が「市民」から成り立っていたのではない歴史の違いを念頭におく必要がありますが、われわれも都市とまでいえなくとも各地に分散的に集落を形成して、お互いに助け合いながら暮らし歴史を刻んできたのです。

暮らしを成り立たせるために必要だったコミュニティー形成の機能は、わが国では広場ではなく道が担ってきたのでした。広場の文化と道の文化の違いというわけです。

わかりやすい実例が京都にあります。京都は時代が下るにつれ、町衆の管理する街となりました。有名な祇園祭は町衆のエネルギーのすさまじさを今に伝えていますが、この祭りの主体である町はすべて道をはさんで形成されています。道の両側が一つの町なのです。道は地域を分断したのではなく、融合させ町を形作ってきたのでした。

車時代に失ってきた道のもつコミュニティー形成機能を、道の駅に期待したいものです。